

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) 1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める	評価指標 1) 生徒の授業満足度調査 75%以上 2) 授業実施時間数の状況調査 27以上 3) 生徒の成績状況調査 年1回以上 4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 70%以上 5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 C-Eランク 70%以上 6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	評価指標の達成度 1) 生徒の授業満足度調査 77.6% (昨年比 +4.5%) 2) 授業実施時間数の状況調査 27 3) 生徒の成績状況調査 年2回 4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 84.2%(昨年比+16.7%) 5) マナトレ 実施状況調査18回 C-Eランク81.5%(昨年比+17.0%) 6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 8回 授業力向上職員研修会 1回	評定 総合評価 B B B A B B	<p>○ほとんどの項目で目標を上回っており、資格取得でも成果が上がっている。</p> <p>○規律ある授業の展開は、生徒の学習意欲の向上に繋がるため、解る授業に努めてほしい。</p> <p>○授業の幅を広く、入学してきた者をやめさせないケアをお願いしたい。</p> <p>○綿密で細やかな教育ができており、入学して優秀な生徒に育っている。取組をどんどん発表すると良い。</p> <p>【評定】 概ねできている</p>	<p>○基礎学力については、まだまだ十分ではない。これからも計画的・継続的な指導が必要である。特に個別指導については、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。</p> <p>○授業力向上に向けた職員研修会は、ICT活用も含めた内容を検討していきたい。</p>
	(下位組織レベル) 1) 基礎学力の向上を行う 2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	活動計画 1) 成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 2) 追試・補講を実施して強力に指導を行う。 3) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 6) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 7) 年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 8) 教職員研修計画を作成し指導力の向上を図る。	活動計画の実施状況 1) 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 2) 追考査、補講は計画的に実施した。 3) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年11回漢字検定) 5) 各ホームルーム3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、18回実施した。 6) 5月、12月に実力テストを実施した。 7) 観点別評価のある年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 8) 12月に授業力向上に向けた職員研修会を実施した。また、延べ8回の研究授業を行った。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) 1) 読書力の向上を図る。 (下位組織レベル) 1) 読書活動の推進に努める。 2) 読書環境の充実に努める。 3) 「読書の日」を設け意識の向上を図る。	評価指標 1) 校内図書館の読書冊数の増減率 10%以上 2) 読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 10分以上 3) 蔵書数の増加率 5%以上 4) 各教科・ホームルーム活動での図書室利用回数 18回以上 5) 「読書の日」の実施 年11回 6) 購入希望図書アンケートの実施 年10回	評価指標の達成度 1) 校内図書館の読書冊数の増減率 6% 2) 読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 14.6分 3) 蔵書数の増加率 1% 4) 各教科・ホームルーム活動での図書室利用回数 33回 5) 「読書の日」の実施 年11回 6) 購入希望図書アンケートの実施 年8回	総合評価 B (所見) 読書活動についてのアンケートでは「図書室は利用しやすいですか」という質問に対しては58%の者が「利用しやすい」と答えているが、昨年度の73%より低い結果となっている。「利用しにくい」理由については「読みたい本がない」「本を読まない」が多かった。「読書の日」の実施については70%のものが賛成している。読書をしようという気持ちはあるが読みたい本に出合っていない現状がある。またライトノベル・携帯小説などの利用が多く、生徒の興味関心の変化が伺える。	○購入希望図書アンケートを実施し、生徒の希望に沿った蔵書に努めているようであるが、利用率が若干少ない。ホームルーム活動での利用回数が上がっているように、何らかの工夫が必要である。 ○読書をする習慣をいかにして生徒の身につけるかであるため、学校で行っている様々なことを根気強く続けて欲しい。 ○どのくらい蔵書が増えているのか。また、読みたい本がないのは何故なのかを考えて欲しい。 ○外部講師による読書指導を行ってはどうか。空いた時間をうまく活用すると良い。 【評定】 概ねできている	○「読書の日」の実施方法を変え、各自で本を持参し持ってきていない者にだけ図書課が用意したプリントを読む。 ○購入希望図書アンケートを月1回実施し、生徒の希望に添った図書の購入をさらにすすめる。 ○他の図書館との協力貸出を実施する。 ○生徒に課題を出し調べ学習を積極的に行う。
		活動計画 1) 読書の日を毎月1回設定する。 2) 家庭読書週間を設定し家庭への啓発を行う。 3) 生徒のニーズにあった図書を購入し蔵書の充実に努める。 4) 学校図書館を利用した授業を実施する。 5) 推薦図書コーナーの充実に努める。 6) 購入希望図書アンケートをもとに購入した本のコーナーを設置する。	活動計画の実施状況 1) 年11回実施できた。 2) 家庭読書週間を設定し一週間家庭での読書時間の調査を行った。 3) 購入希望図書アンケートを実施し生徒のニーズにあった本を購入できた。 4) 教科に関係した専門書の購入ができたため図書室での調べ学習の時間が増えた。 5) 図書委員おススメの本を毎月紹介できた。 6) 購入希望図書アンケートをもとに購入できた本のリストや本の紹介文を図書室前に張り出すなど生徒の興味を喚起しようとした。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) 1) 基本的な生活習慣の確立を図る。 2) 生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) 1) 保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 2) 遅刻・欠席指導の徹底を図る。 3) 身だしなみ指導の徹底を図る。 4) 登下校指導を行う。 5) 交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 1) 家庭訪問実施回数 150回以上 2) 遅刻者・欠席者の増減率 -20% 3) 身だしなみ検査延べ指導者数-20% 4) 車両定期点検の実施回数 5回以上 5) 交通事故加害者数 0人	評価指標の達成度 1) 家庭訪問実施回数 244回 2) 遅刻者・欠席者の増減率-32% 3) 身だしなみ検査延べ指導者数-38% 4) 車両定期点検の実施回数 5回 5) 交通事故加害者数 0人	総合評価 B (所見) 昨年度より遅刻者・欠席者が減少した。要因として担任・副担任の先生方が年度始めに家庭訪問を行い、保護者との連携が図れたからであると考えられる。また無断遅刻・無断欠席が多くなった者に対しては改善指導を行い、遅刻・欠席連絡の習慣がついたと思われる。毎月の身だしなみ指導と毎授業の最初と最後に身だしなみを整える取組が浸透してきた。しかし、教員が見ていない場所や登下校時に服装が乱れるなどの問題点もある。春と秋の交通安全指導、登下校指導時に服装指導、交通安全指導を行い、学外での生活習慣・交通マナーの向上が図られている。現在、警察と連携し、部活動者に反射板や自転車通学生には発光型の安全器具を着用させ、事故防止に繋がっている。しかし、これも教員が見ていない場所や登下校時に交通マナーが守られているとは言い切れない。交通違反・事故者はいなかったものの、これからも交通安全意識の向上に努めなければならない。	○保護者(家庭)との連携ができなければ十分な成果を上げることができないので、機会あるごとに連携を取り、双方から進めてほしい。 ○家庭訪問の回数が大幅に増え、保護者と共に進路/身だしなみ/交通安全指導を効果的に行い、効果が上がっている。 ○全職員が一丸となって頑張っている。ことがよく分かった。 【評定】 概ねできている	基本的な生活習慣の確立には学校・家庭両面からの基盤作りが必要である。しかし、年度当初は家庭訪問のための時間が取りにくい現状がある。他の課と連携して時間を確保しなければならない。 無断遅刻・無断欠席が減少したが、ゼロになる月はない。改善指導を徹底しなければならない。 身だしなみ指導者数も減少してきたが、校外での服装の乱れまで徹底できていない。規範意識を育てる教育を進めなければならない。 交通事故ゼロを続けるために警察と連携し、視聴覚教材を使った指導を充実させなければならない。
		活動計画 1) 家庭訪問を実施する。 2) -1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 2) -2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 4) 車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 5) -1免有者に対して視聴覚教材を用いた指導を行う。 5) -2登下校指導計画を作成し指導を行う。 (あいさつ、遅刻、服装) 5) -3全教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。	活動計画の実施状況 1) 全生徒の家庭訪問を1年生は全員、2・3年生は昨年から継続して担任している者以外全員、1学期間中に行い、生徒の進路や通学路の危険箇所確認ができ、家庭との連携も深まった。 2) -1遅刻カードにより遅刻者の把握と指導を行い、遅刻者が減少した。 2) -2無断遅刻・無断欠席数調査を行い、改善指導を進めた結果、遅刻・欠席者数の減少と遅刻者・欠席者の保護者との連絡が確実に取れるようになった。 3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して頭髪・服装の乱れが減少した。授業前・授業後に身だしなみを整える習慣が身についた。 4) 車両登録・安全点検を学期初めと学期終わりに実施できた。学期毎に全校・学年集会で交通安全に関する注意を行った。 5) -1原付の免有者に対し、視聴覚教材を用いた安全運転啓発ができなかった。 5) -2指導計画により指導を行いあいさつの励行及び身だしなみ指導ができた。 5) -3通学路の危険箇所確認と交通マナーの向上が図れた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
生活力 (ソーシャルスキル)の育成	(全校レベル) 1) 教育相談活動の充実と生徒支援に努める 2) 生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める	評価指標 1) 教育相談体制の充実度 ①教職員への親しみやすさ ②教職員への相談の満足度 ③教職員との信頼関係度 2) 各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査Q-U)による生徒理解度 3) 職員研修における職員の満足度	評価指標の達成度 1) 教育相談体制の充実度 ①教職員への親しみやすさ ②教職員への相談の満足度 ③教職員との信頼関係度 2) 各種検査(教研式高校知能検査・学級満足度調査Q-U)による生徒理解度 3) 職員研修における職員の満足度	評定 B B B	総合評価 B (所見) ○教職員に対して親しみを感じる生徒も増えつつあると思われる。信頼関係をさらに深め、生徒が相談しやすい体制をつくることが課題である。 ○各種検査結果を活かし生徒理解を深めることができた。 ○2回の特別支援教育研修を実施した。現実に即した事例研修だったので、学校教育と福祉行政とのつながりを理解できたという感想であった。 ○基礎学力向上へ向けて組織的な取組ができマナトレや漢字検定とも生徒の級位も徐々に向上している。生徒たちも積極的に学ぼうという姿勢が見られるようになった。 ○教科担任会等により、生徒の実態把握と共に教科担任間で連携した指導を行うことができた。 今後も一貫性を持った指導を実践できるよう支援体制を整えたい。	○生徒と教師の信頼関係が大きく影響するので、常日頃からこのことを心がける必要がある。生徒理解を深めて、生徒に必要な支援を進めることが必要である。 ○教育相談日を設定し、カウンセリングの回数も増えて効果が表れているが、全生徒を対象にした個人面談等、家庭訪問での相談を密にした支援も効果的ではないか。 【評定】 概ねできている	○生徒が教職員に相談できる関係をさらに育てることが課題である。そのために、生徒理解に努めていく。 ○教職員研修においては、教職員のニーズに応じた内容を設定できたと考える。さらに教育相談や特別支援に対応できるよう研修内容を工夫したい。 ○今後も生徒のニーズに応じた支援が図れるよう関係機関との連携を深め、情報交換を行い、適切な支援が図れるよう特別支援教育コーディネータが中心となって教科担任会などを継続的に開いていく必要がある。
	(下位組織レベル) 1) 教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。 2) 生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。 3) 特別支援教育職員研修の充実を図る。	活動計画 1) 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 2) 各種検査を実施し生徒の困難さに気づき、問題を把握し、問題解決に向けて取り組む。 3) それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行う。 4) 校内での支援体制を整える。 5) 関係機関との連携を図る。	活動計画の実施状況 1) 毎週水曜日を教育相談日として学校行事に組み込みのべ25回実施した。 2) 各種検査結果をもとに学校生活や進路等で担任が気になる生徒に対しては個別に面談等を行い、一人一人の情報を把握し、教科担任会などを通じて学校全体で情報の共有を図ることができた。 3) 毎週木曜日、朝のSHRを利用してマナトレ(小学校の計算の学び直しトレーニング)を各ホームルーム担任を中心に3人のチームティーチングで16回実施した。また、校内漢字検定を11回実施するなど生徒の基礎学力向上に向けた取組を行うことができた。今年度は特別教育支援員の制度を活用し、10時間/週で支援を必要としている生徒の授業に入り、チームティーチングを行った。 4) 生徒支援支援体制の再構築を図り、教科担任会や学年会等で情報の共有を図れるよう改善策を講じている。 5) 関係機関(医療・教育・福祉等)の連携を図り、統一した支援が図れるよう対応を行った。今年度は特にスクールプロフェッサー制度を活用し、生徒や保護者の不安を軽減できるよう努めた。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
生活力の育成	(全校レベル) 1) 道徳教育と関連させ人権尊重の精神を基盤とした教育活動に努める。 2) 日々の生活や研修等を通じ、教職員自身の人権意識の向上に努める。 (下位組織レベル) 1) 人権教育ホームルーム活動の充実を図る。 2) 「学校人権の日」の取組の充実を図る。 3) 人権教育教職員研修の充実を図る。 4) 道徳教育ホームルーム活動の充実を図る。 5) 道徳教育の視点を意識して学校行事を運営する。	評価指標 1) 人権学習ホームルーム活動を年間5回実施し、生徒の理解度を90%以上にする。 2) 「学校人権の日」における人権学習についての生徒の理解度を90%以上にすると同時に、各自の人権意識をふり返る活動を行う。 3) 人権教育教職員研修における教職員の満足度を80%以上にし、各種研究会に延べ15名以上が参加する。 4) 道徳教育ホームルーム活動を年間2回実施し、行事計画書に道徳的視点の欄を設定する。	評価指標の達成度 1) 人権学習ホームルーム活動を年間5回実施、生徒の理解度93%積極的に取り組んだと答えている生徒は78% 2) 「学校人権の日」における人権学習の生徒の理解度96%。86%の生徒が各自の人権意識をふり返ることができたと答えている。 3) 人権教育教職員研修における教職員の満足度82%。校外各種研究会参加者延べ18名 4) 道徳教育ホームルーム活動年間2回実施。行事計画書の道徳的視点の欄設定100%	評定 B B B B	総合評価 B 実施した個別人権課題への理解度は高かったが、すべての生徒が積極的に活動し、人権課題を自分の問題として捉え、行動化できているとはいえない。 生徒ひとりひとりが人権尊重の精神を理解し、自分自身大切にされていると実感できるホームルーム活動が実施できるよう、形態を工夫し、内容を充実させたい。 人権委員や人権自主活動サークルの生徒が各ホームルームで中心となって人権意識向上の啓発を行えるように、基本的な知識を習得させるとともに主体性を養う必要がある。 道徳教育に関して、ホームルーム活動では各学年で同じような主題になっている部分があるので、現在の生徒の実態にあっているのか再検討し、主題の設定を行いたい。全体としてはホームルーム活動や学校行事等が中心で、各教科での意識的な取組にまでは広がっていない。今後、さらなる深化が必要である。	○人権意識の高揚が第一と思われるので、学習活動やホームルーム活動等の機会を増やして常に意識を持たせることが必要と思う。 ○人権教育は全ての教育活動の基本であることを認識して教育を展開してほしい。 ○生徒を導き指導する教職員にとって人権意識の向上は常に大切なことであり、全ての教育の基本であることを認識してほしい。 【評定】 概ねできている	○生徒の人権意識をさらに高揚させるよう生活ふり返しシートの内容を再検討したい。また、人権ホームルーム活動の実施形態を工夫し、知識の習得や理解から行動に結びつけられるような取組を実施したい。 ○生徒の自主活動をさらに活発化させ、人権学習ホームルーム活動時にリーダー的存在にになれるような生徒を育成する必要がある。 ○各教科での道徳教育の取組例を提示するなど、普段の授業のなかで道徳教育を意識した取り組みができるようサポートしていきたい。
		活動計画 1) 生活課員とホームルーム担任との連携で教材を作成し、ホームルーム活動の充実と推進を図る。 2) 人権委員会(生徒)が主体的に「学校人権の日」を運営する。人権委員の事前指導を行い、当日の啓発の中心とする。年間9回生活ふり返しシートを実施し、人権意識をふり返る活動を行う。 3) 人権教育教職員研修において講義形式による研修のほかに、ワークショップ形式や視聴覚教材等も利用した研修を行う。 4) 道徳教育の視点を全教職員に提示し、行事計画に道徳的視点を取り入れる。	活動計画の実施状況 1) 学年団と生活課との連携で、ホームルーム指導案を作成し、活動の充実と推進を図った。 2) 人権委員会が人権教育講演会の司会進行を担当した。生活ふり返しシートを年間9回実施した。 3) 人権教育職員研修会を年3回実施した。本校の人権教育の課題について、またデートDVの防止やその対処法について研修を行うとともに、各種人権教育研究大会の伝達報告及び生活ふり返しシートの結果分析報告を行った。 4) 学年団と生活課との連携で、道徳教育ホームルーム指導案を作成、学校全体でホームルーム活動の充実と推進を図った。また、教務課と連携して行事計画書の様式に道徳的視点を記入する欄を設け、すべての行事で記入した。				

備考 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) 1) 特別教育活動の充実を図る	評価指標 1) ホームルーム活動満足度 80%以上 2) 生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上 3) 各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 10回以上 4) 部活動の加入状況 80%以上	評価指標の達成度 1) ホームルーム活動満足度 78% 2) 生徒会の活動状況 学校行事の満足度 84% 3) 各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 7.3回 4) 部活動の加入状況 61%	総合評価 B (所見) 全体的には概ね目標を達成できた。 特に体育祭や楓祭などの学校行事では生徒会と教職員が連携して活動した結果、生徒も意欲的に参加し一定の成果を収めることができた。 生徒会でも教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が展開できた。部活動入部率も評価指標には達することはできなかったが、昨年度(53%)に比べると増加している。主な活動実績からも分かるように、熱心に継続した活動を続け、県下でも顕著な成績を収めることができています。	○特別活動は学校生活に”うるおい”を与え、個々の個性を伸張させる時間であるため、大切にしてほしいものだ。 ○部活動は生徒数の減少の中、運営が難しくなると思うが、生徒の希望の多い部活動をつくることも良いのではないか。 【評定】 概ねできている	○生徒会執行部の活動は会長を中心に活動できているが、各種専門委員会の活動に開きがある。それぞれの役割を明確にし、自覚を持たせた活動をさせていきたい ○部活動を継続できる生徒が年々減少し特に団体競技の活動が困難になってきている。部活動の精選などを踏まえ、環境作りへの創意工夫が必要である。 ○学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施していく。
	(下位組織レベル) 1) ホームルーム活動の活発化を図る 2) 各種専門委員会活動の推進を図る 3) 生徒会活動・部活動の活性化を図る	活動計画 1) よりよい人間関係づくりに努める。 2) 生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。 3) 各種専門委員会の活動の充実に努める。 4) 部活動の充実に取り組む。	活動計画の実施状況 1) 新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年34、2年34、3年31時間、年間計画に沿って行うことができた。 2) 生徒会執行委員会を年間26回「暖和室」にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動できた。 3) 人権6回・美化10回・保健8回・体育8回・図書12回・交通安全4回・花時計3回、各委員会に差はあるが、年間活動計画表を提出、実施し全体的には概ね達成できた。 4) 入部率(61%)増8部、減0部、増減なし4部。 「主な活動実績」 情報処理(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) 会計研究(全国珠算電卓競技会出場) レスリング(全国レスリング・グレコローマンスタイル選手権大会出場) 弓道(50射選手権男子県総合2位)			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) 1) 環境教育の推進を図る。 2) 防災教育の推進を図る。 (下位組織レベル) 1) 校内外の美化活動を推進する。 2) 省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 3) 防災学習の計画を立て実践に取り組む。 4) 有効適切な防災避難訓練の計画と実践に取り組む。	評価指標 1) 美化活動の達成度 90%以上 2) 節電昨年度比 10%減少 3) HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% 4) 防災避難訓練における生徒の参加率100%	評価指標の達成度 1) 美化活動の達成度 80 % 2) 節電昨年度比 10 %減少 3) HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100 % 4) 防災避難訓練における生徒の参加率 90 %	評定 総合評価 B (所見) ゴミや学校環境の改善についてはおおむね達成できた。防災意識についても少しは向上したと感じる。さらに、生徒の自主的な活動が見られ、役割分担もきちんとできていた。そして、学校全体で節電に取り組もうという意識が定着してきた。防災については意識づけにはなっているが身近の問題としてはなかなか捉えられず、訓練のみの体験となり真剣味がないように感じた。日常の防災意識をもっと高められるように指導が必要である。	○美しい環境は私たちの心にも良い影響を与え、元気・勇気・やる気を促し、省エネ、リサイクルにも連動する。このことは命を守ることに繋がり、真剣な訓練を臨みたい。 ○南海トラフの巨大地震が近い将来くると想定されている。活断層上にある本校は特に防災教育・訓練は大切かと思う。 【評定】 概ねできている	○校舎内の美化や修繕など気づいた点については早急の対応を心がけた。今後もよりよい学習環境づくりを進めたいと思う。 ○防災については意識づけの段階で実践までには至っていない。地域や行政機関との情報交換をして、防災教育を深めたい。
		活動計画 1) -①校内外の清掃美化実践をする。 1) -②ゴミの分別・再利用・減少に努める。 2) 環境問題学習をして意識を高める。 3) 防災学習をして意識を高める。 4) -①有事の際に対応する防災避難訓練をする。 4) -②救急救命への適切な指導をする。	活動計画の実施状況 1) 清掃美化実践およびゴミの分別等 ①5・6・9・10・11・1・2月に清掃美化活動を実施 ②清掃時間にストックヤード前で分別 2) 環境問題学習について 節電や節水および冬季のストーブ使用について日頃の管理について意識づけた。 3) 防災学習 1学期と2学期に防災学習を実施 4) 防災訓練および救急救命 ①11月に防災避難訓練を実施 ②体育・保健の授業内でAED操作の訓練			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																	
生活力の育成	(全校レベル) 1) 生徒一人ひとりが健康で安全な学校生活をおくることができるよう、保健厚生への取組の充実を図る。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>1) 保健室の利用件数 前年度以下</td> <td>1) 保健室の利用件数 377件 (前年度比 33%減)</td> <td>A</td> <td rowspan="4">B</td> </tr> <tr> <td>2) ①健康状況の把握 90%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 90%以上</td> <td>2) ①健康状況の把握 86.2% ②疾病やけがの手当等の理解度 93.1%</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>3) 性教育に関する理解度 90%以上</td> <td>3) 性教育に関する理解度 90.3%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>4) 救命救急法等の研修実施 年1回以上</td> <td>4) 救命救急法等の研修実施 年1回実施</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評	総合評価	1) 保健室の利用件数 前年度以下	1) 保健室の利用件数 377件 (前年度比 33%減)	A	B	2) ①健康状況の把握 90%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 90%以上	2) ①健康状況の把握 86.2% ②疾病やけがの手当等の理解度 93.1%	B	3) 性教育に関する理解度 90%以上	3) 性教育に関する理解度 90.3%	A	4) 救命救急法等の研修実施 年1回以上	4) 救命救急法等の研修実施 年1回実施	B	<p>(所見) 性に関する学習をはじめとして様々な健康教育を実施した。指導後の理解度は高い。 一方で、健康診断の結果から個々の生徒が抱える健康課題や健康状態を十分に把握できていない者が少し増加した。 心身の健康に対する意識を高めるとともに、生徒の主体性を重視した取組をさらに深め、実施する必要がある。 心配蘇生法のガイドラインが変更になったため、手技の確認だけでなく、手順や実施時の要点について確実に学ぶことができた。</p>	<p>○毎月発行される「保健だより」は生徒が参考とすべき内容がたくさんあり、大切なものなので継続してほしい。</p> <p>○活動計画による実践が全般に良くできていると思う。</p> <p>○生徒に対するきめ細かな指導がなされておりうらやましい。</p> <p>【評定】概ねできている</p>	<p>○食事や睡眠といった基本的な生活習慣の改善を図る取組が必要である。生活習慣に関するアンケート結果を基に、関連する教科や各課との連携を積極的に行っていきたい。</p> <p>○性に関する学習については、生徒の発達段階を考慮するとともに、今後も「性」＝「生」、「自分を大切にすること」という視点に立って、理解度の維持やさらなる向上に努めたい。</p> <p>○生徒一人一人の主体性を育むことができるよう常に留意し、計画的に指導を行う。</p> <p>○救命救急法の研修については、引き続き実施する。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評	総合評価																		
1) 保健室の利用件数 前年度以下	1) 保健室の利用件数 377件 (前年度比 33%減)	A	B																			
2) ①健康状況の把握 90%以上 ②疾病やけがの手当等の理解度 90%以上	2) ①健康状況の把握 86.2% ②疾病やけがの手当等の理解度 93.1%	B																				
3) 性教育に関する理解度 90%以上	3) 性教育に関する理解度 90.3%	A																				
4) 救命救急法等の研修実施 年1回以上	4) 救命救急法等の研修実施 年1回実施	B																				
(下位組織レベル) 1) 個々の健康管理を支援する。 2) 性教育を推進する。	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>1) 学校保健・安全計画を作成し指導に努める。 2) 保健室の実態を保健指導に生かす取り組みを行う。 3) 性教育を実施する。 4) 救急救命への適切な指導をする。</td> <td> <p>1) 学校保健・安全計画を作成し、健康診断の結果など、生徒一人一人に応じた助言や保健指導を行っている。また、教職員との情報交換を行うことで共通理解を図っている。</p> <p>2) 各ホームルーム担任に依頼し、健康診断結果の通知を三者面談で行った。受診が必要となる項目や配慮を要するものについては、家庭との共通理解を図ることができた。また、保健室来室者へは、再発防止や適切な対処方法が習得できるよう、イラストや写真を用いながら、生徒の理解度に応じた指導を行っている。健康教育においては、熱中症予防対策として健康教育講演会を1回実施した。毎月1回保健だよりを発行し、健康や安全に関する内容を掲載することで意識の向上を図った。また、学校保健委員会を1回開催し、学校歯科医や保護者、代表生徒、教職員で生徒の生活習慣(食生活)についてのアンケート結果を基にした協議を行い、話し合われた内容はすべての生徒や教職員に周知した。その他、学年集会での麻疹・風疹予防接種の接種勧奨など、様々な活動の機会を通して、指導や啓発を行っている。</p> <p>3) 教科、学年、各課との共通理解を図り、性に関する指導を推進するため、性教育委員会を開き、年間計画を策定した。年間計画に基づいて、各学年で発達段階に応じた系統的な指導を行っている。今年度は、産婦人科医師や助産師など外部専門家による講演会を2回実施するとともに、性に関するホームルーム活動を2回実施した。「いのちの大切さ」「性感染症」「デートDV」「自己実現」などの内容で指導を行った。</p> <p>4) 池田消防署より講師2名を招き、実技とシミュレーションを取り入れた研修を実施した。一般教室と実習棟の2班に分かれ、様々な場面を想定し訓練を行った。</p> </td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	1) 学校保健・安全計画を作成し指導に努める。 2) 保健室の実態を保健指導に生かす取り組みを行う。 3) 性教育を実施する。 4) 救急救命への適切な指導をする。	<p>1) 学校保健・安全計画を作成し、健康診断の結果など、生徒一人一人に応じた助言や保健指導を行っている。また、教職員との情報交換を行うことで共通理解を図っている。</p> <p>2) 各ホームルーム担任に依頼し、健康診断結果の通知を三者面談で行った。受診が必要となる項目や配慮を要するものについては、家庭との共通理解を図ることができた。また、保健室来室者へは、再発防止や適切な対処方法が習得できるよう、イラストや写真を用いながら、生徒の理解度に応じた指導を行っている。健康教育においては、熱中症予防対策として健康教育講演会を1回実施した。毎月1回保健だよりを発行し、健康や安全に関する内容を掲載することで意識の向上を図った。また、学校保健委員会を1回開催し、学校歯科医や保護者、代表生徒、教職員で生徒の生活習慣(食生活)についてのアンケート結果を基にした協議を行い、話し合われた内容はすべての生徒や教職員に周知した。その他、学年集会での麻疹・風疹予防接種の接種勧奨など、様々な活動の機会を通して、指導や啓発を行っている。</p> <p>3) 教科、学年、各課との共通理解を図り、性に関する指導を推進するため、性教育委員会を開き、年間計画を策定した。年間計画に基づいて、各学年で発達段階に応じた系統的な指導を行っている。今年度は、産婦人科医師や助産師など外部専門家による講演会を2回実施するとともに、性に関するホームルーム活動を2回実施した。「いのちの大切さ」「性感染症」「デートDV」「自己実現」などの内容で指導を行った。</p> <p>4) 池田消防署より講師2名を招き、実技とシミュレーションを取り入れた研修を実施した。一般教室と実習棟の2班に分かれ、様々な場面を想定し訓練を行った。</p>																	
活動計画	活動計画の実施状況																					
1) 学校保健・安全計画を作成し指導に努める。 2) 保健室の実態を保健指導に生かす取り組みを行う。 3) 性教育を実施する。 4) 救急救命への適切な指導をする。	<p>1) 学校保健・安全計画を作成し、健康診断の結果など、生徒一人一人に応じた助言や保健指導を行っている。また、教職員との情報交換を行うことで共通理解を図っている。</p> <p>2) 各ホームルーム担任に依頼し、健康診断結果の通知を三者面談で行った。受診が必要となる項目や配慮を要するものについては、家庭との共通理解を図ることができた。また、保健室来室者へは、再発防止や適切な対処方法が習得できるよう、イラストや写真を用いながら、生徒の理解度に応じた指導を行っている。健康教育においては、熱中症予防対策として健康教育講演会を1回実施した。毎月1回保健だよりを発行し、健康や安全に関する内容を掲載することで意識の向上を図った。また、学校保健委員会を1回開催し、学校歯科医や保護者、代表生徒、教職員で生徒の生活習慣(食生活)についてのアンケート結果を基にした協議を行い、話し合われた内容はすべての生徒や教職員に周知した。その他、学年集会での麻疹・風疹予防接種の接種勧奨など、様々な活動の機会を通して、指導や啓発を行っている。</p> <p>3) 教科、学年、各課との共通理解を図り、性に関する指導を推進するため、性教育委員会を開き、年間計画を策定した。年間計画に基づいて、各学年で発達段階に応じた系統的な指導を行っている。今年度は、産婦人科医師や助産師など外部専門家による講演会を2回実施するとともに、性に関するホームルーム活動を2回実施した。「いのちの大切さ」「性感染症」「デートDV」「自己実現」などの内容で指導を行った。</p> <p>4) 池田消防署より講師2名を招き、実技とシミュレーションを取り入れた研修を実施した。一般教室と実習棟の2班に分かれ、様々な場面を想定し訓練を行った。</p>																					

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) 1) 一人ひとりの生徒の能力適性を生かした進路の実現のための進路指導を推進する。 (下位組織レベル) 1) 生徒の進路希望の把握に努める。 2) 進路情報の提供に努める。 3) 事業所・進学先・ハローワークとの連携に努める。 4) 生徒の実態把握に努める。	評価指標 1) 3年生進路内定率 100% 2) 2年生終了時の進路希望未定者 0 3) 進路希望調査 年間2回以上 4) 面接回数 一人あたり3回以上 5) 進路ホームルーム活動 年間3回 6) 保護者への情報提供 3回以上 7) 進路説明会の満足度 80%以上 8) 事業所訪問 70社以上 9) 進路補習への参加率 80%以上 10) マナトレ実施状況 ①実施回数 15回以上 ②7級合格率 80%以上	評価指標の達成度 1) 3年生進路内定率 100% 2) 2年生終了時の進路希望未定者 0 3) 進路希望調査 年間2回 4) 面接回数 一人あたり3回 5) 進路ホームルーム活動 年間3回 6) 保護者への情報提供 3回 7) 進路説明会の満足度 82% 8) 事業所訪問 64社 9) 進路補習への参加率 78% 10) マナトレ実施状況 ①実施回数 18回 ②7級合格率 82%	評定 総合評価 B (所見) 進路意識の早期確立を意識した基礎学力の向上と基本的生活習慣の確立、コミュニケーション能力の育成に取り組む必要がある。 高校生活を通してキャリア教育を構築するために作成した進路ノートのより効果的な利用を考える。	○3カ年間、計画的、段階的な指導計画が作成され、よく実践できている。 ○生徒の将来を決定づける進路指導はたいへん重要だと思う。活動計画に応じた実施で達成度も上がっている。 【評定】 概ねできている	○年内に進路先は概ね叶ったが、就職希望者に対しては、不況の波はまだまだ影響を残している。今後の職場開拓がさらに重要になってくる。 ○希望する進路を実現するために、基礎学力とコミュニケーション能力を高めるための方策を考える。
		活動計画 1) 進路ノートを活用し、進路指導の基礎資料を作成する。個々の能力と適性に合致した進路決定に努める。 ①進路指導計画を作成する。 進路面接の充実を図る。 適性検査等を実施して進路意識を高める。 ②進路説明会の実施と資料提供を行う。 1・2年生：進路ガイダンス〔就職・進学(大学・短大・専門学校)〕のガイダンスを実施する。 ③求人獲得にむけて事業所を訪問し職場開拓を行う。 ④進路補習を実施し実力養成を図る。 マナトレを活用し計算力を高める。	活動計画の実施状況 1) 進路ノートと補足の資料をHR活動用に作成した。 ①-1進路希望調査の結果を基に、進路計画を作成した。 ①-2学期ごとの面談、夏期の三者面談を利用して担任が、進路相談を実施した。適性検査を通して進路意識を高め、個々にクレペリンを実施した。 ②-1進路選択の幅を広げる進路ガイダンスを11月に実施した。 ②-2PTA総会や3年保護者会において、資料提供と協力を依頼した。 ③各事業所に求人依頼、応募書類持参のため訪問した。 ④-1受験報告書を参考に学習計画をたて進路補習に利用した。 ④-2毎週のマナトレに加えて、進路対策として3年生に適性検査SPI-2を数学と国語で実施した。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) 1) 特色ある農業教育の推進を図る。 2) 地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標 1) 現場実習の延べ実施日数 35日以上 2) 農業科授業研修の実施 年間3回 3) 学校開放講座参加者の満足度 80%以上 4) 農業技術検定合格率 70%以上 5) 学校農業クラブでの成果 県予選3種目以上入賞 6) 農場生産物販売額 年度当初計画100%達成 7) 授業に対する生徒の満足度 80%以上	評価指標の達成度 1) 現場実習の延べ実施日数31日 2) 農業科授業研修の実施 年間3回 3) 学校開放講座参加者の満足度 100% 4) 農業技術検定合格率 67.6% 5) 学校農業クラブでの成果 県予選4種目入賞 6) 農場生産物販売額 年度当初計画 83.4%達成 7) 授業に対する生徒の満足 90.9%	評定 総合評価 B (所見) 地域との連携においては科目「地域貢献」や「産官学連携実学モデル事業」を活用し、現場実習、販売実習、開放講座、体験入学、異校種間連携等一定の成果を収めることができた。また、学科再編に関わる教育課程に対応するために、施設・設備の充実、職員の資質向上等に早急に取り組む必要がある。 ホンシメジやホンモロコにおける地域ブランドや、特産品の研究においては、課題が多く、大きな進展が見られていない部分もあり、今後の継続研究が必要とされる部分である。 生徒の資格取得については、(2月末現在)本年度延べ103名の生徒が、何らかの資格を修得することができた(昨年度111名)。	○学科再編により主体的となる農業教育、地域との連携強化により、地域産業の活性化に繋がるような教育を推進してほしい。 ○特色ある農業教育の展開がなされている。ホンシメジ、ホンモロコの研究は地域産業の担い手育成に大きな成果をもたらすものとする。 ○薬草の作り方の研究や地域での指導、高齢者がつくることができるよう研究をしてもらいたい。 ○特色ある農業、循環型の教育を進めてもらいたい。 ○地域の環境を調べて、これに合う農業を考えてもらいたい。 【評定】 概ねできている	○26年度より実施される学校設定科目「薬用植物学」については、いかに地域と連携し、地域の活性化につなげていくか検討する必要がある。 ○農場運営については、年度当初の適正な農場運営計画と教育計画に基づき、実践しなければならない。 ○新学科に伴う農場の見直しと、それに伴う再編計画をさらに検討していく必要がある。 ○地域産業の活性化につなげるために、ホンモロコ、ホンシメジ、薬用植物等の特産品の開発とその普及に教育活動をいかにか検討しなければならない。 ○教職員の資質向上、生徒の課題解決については、PDCAサイクルのもと、継続して実施しなければならない。
		活動計画 1) -1生徒の現場実習を実施する 1) -2ホンモロコ・ホンシメジの試験研究を推進する 1) -3サギソウの増殖活動を推進する 2) ・7) 生徒の実態(課題)を把握し、生徒の課題解決と教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施する 3) 学校開放講座の実施により、地域連携・開かれた学校作りを推進する 4) 農業技術検定に対応した補修体制を構築する 5) 生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化する 6) 農場の適正化を図り、施設・設備の充実に努める	活動計画の実施状況 1) -1科目「地域貢献」を活用し、地域の教育力を活用することができた。 1) -2ホンモロコは地域の飼育農家へ、ホンシメジは推進協議会を開催するなど普及に努めた。 2) ・7) 生徒アンケートの結果から、生徒の課題解決、教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施した。 3) 満足度100%という好結果を得ることができた。 4) 2学期より22時間の補習を実施した。 5) 測量競技においては、全国大会で優秀賞を受賞した。 6) 施設・設備の老朽化への対応、新教育課程に対応した施設・設備のさらなる充実が必要である。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成24年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) 1) 生徒一人ひとりの理解力と興味関心に応じた授業の工夫により生徒の学習に対する意欲を高める。	評価指標 1) 授業評価による生徒の授業満足度 80%以上 2) ワープロのタッチメソッド操作 100% 3) 3年生の3種目以上1級検定合格率 40%以上 1・2年生の各検定合格率 90%以上 4) 販売実習の実施 15回以上 5) 競技会の全国大会出場 3大会	評価指標の達成度 1) 授業評価による生徒の授業満足度 78% 2) ワープロのタッチメソッド操作 100% 3) 3年生の3種目以上1級検定合格率 33.3% 今年度の各検定合格率 83.3% 4) 販売実習の実施 12回 5) 競技会の全国大会出場 3大会 ワープロ団体 情報個人 電卓個人	評定 総合評価 B (所見) 3種目以上1級合格者が3年生12名中4名で6種目は2名であった。2年生1名がすでに4種目取得している。また、検定の合格率が高い。これは、生徒の努力と先生方の粘り強い指導の結果である。生徒の授業満足度には日々の先生方の創意工夫による授業展開が効を奏した。達成感をさらに高めるよう努めたい。ワープロ競技会の県大会4連覇は生徒数減少の中、厳しい状況を克服しての結果である。電卓競技会と情報処理競技会に於いて個人第2位の成績を収め、全国大会の出場を果たした。国家資格であるITパスポートに1名合格した。次年度以降も大いに期待できる。	○各種検定の合格率、競技会の成績等、先生方の授業展開の努力だと思う。 ○このことにより、多くの生徒が資格や検定に合格しており、今後も継続した指導をお願いしたい。 【評定】 概ねできている	○上位級取得と、販売実習等による地域貢献の両立ができるよう工夫する。 ○外部団体主催検定の合格数アップと、競技会の入賞を目指す。 ○出張販売や校内店舗の充実に努める。
	(下位組織レベル) 1) 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる 2) 各種検定・資格の取得を積極的に推進する。 3) 実践的・体験的学習を充実させる	活動計画 1) 生徒の実態にあった授業を展開する。 2) オリエンテーションで生徒の意識を高め、効果的な指導を行う。始業時、終業時における挨拶の徹底を図る。 3) 検定前補習や個別指導を適宜行う。 4) 校内販売所での実習に加えて池田商店街への出店を計画実行する。 5) 各種競技会に向けて選手の競技力向上を図る。	活動計画の実施状況 1) 習熟度別やT.Tの授業を展開することにより、丁寧できめ細かい指導が実施できた。 2) 毎時間、服装や挨拶を通してビジネスマナーの向上を目指したが、十分に徹底できたとはいえない。 3) すべてで効果が表れている。 4) 校内販売や東西祖谷出張販売に加えて「阿波池田ぎんぎ商店街活性化」の一環としてオープンセレモニーの参加やCM制作、空きスペースでの出張販売を行い地域貢献に努めた。 5) 熱心な指導により上記のような優秀な成績を得ることができた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成24年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) 1) 教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める (下位組織レベル) 1) 小中学校へ情報発信を行う。 2) 地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 3) 学校Webページを活用して情報発信に努める。 4) PTA活動の活性化に取り組む。	評価指標 1) 学校Webページの情報発信状況 年間60回以上 2) 本校行事等に対する報道機関等の取材回数 20回以上 3) 文化祭(楓祭)での来校者の満足度 70%以上 4) 学校開放講座の参加者の満足度 80%以上 5) 保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	評価指標の達成度 1) 学校Webページの情報発信状況 年間125回 2) 本校行事等に対する報道機関等の取材回数 17回 3) 文化祭(楓祭)での来校者の満足度 64.3% 4) 学校開放講座の参加者の満足度 100% 5) 保護者の学校行事等への参加状況 年間 72人	評定 総合評価 B (所見) 本年度学科再編を行い、HP等の活用により、再編内容の発信を行ったが、十分な効果が上がったとは言い難い。また、中学生体験入学では、新学科の教育課程に応じた、講座を開講することにより、新学科のアピールを図った。 PTA活動に関しては、役員、保護者への負担も考慮し、例年並みの実施内容ではあったが、役員の方々の熱心な取組により、充実した活動を行うことができた。 また、各種イベントへの参加、催し等を通じて、本校教育内容を地域に発信することができた。	○学校ホームページの情報発信の充実により、学校教育への理解と関心は高まるものと思う。 ○専門高校は地域社会に学校を開き、教育内容を公開することで、地域の皆さんに理解されているので、今後も継続してほしいと思う。 ○バーチャルICTは具体的にはどのようなことをしているのか。特色のある内容を期待している。 【評定】 概ねできている	○日程を考慮したが、本年度も総会の参加者が少なく、参加依頼の方法、内容など検討する必要がある。 ○各種行事の実施においては、危機管理を徹底する必要があると感じた。行事毎の危機管理マニュアルを作成する事により、教職員の共通理解を図る事が必要である。
		活動計画 1) バーチャルICT三好を推進し情報提供に努める。 2) 幼稚園、小学校の食農教育の教材の提供を行う。 2) -1地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 3) 楓祭において、販売・展示の充実を図る。 4) 体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 5) -1役員会等の活性化を図り、参加者の増加を進める。 5) -2保護者への通信、チラシ等の資料を作成し配布する。	活動の成果・課題 1) HP等を通して、情報発信に努めたが、ICTを活用した出前授業などの実施はなかった。 2) 科目「地域貢献」を活用し、地元幼稚園、小学校と交流を深めることができた。 2) -1地域のイベントに出向き、販売、パネル展示を行い、本校教育活動の内容を地域に発信することができた。 3) 来客者の要望に応じられる品目数、商品数を確保する必要があると感じた。 4) 中学生体験入学を2回、開放講座を8日間実施した。参加者の満足度は高かった。 5) -1例年どおりの実施内容に終わった。 5) -2十分に実施するに至らなかった。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要